

学 校 教 育 目 標	自ら伸びゆく児童の育成
目 指 す 学 校 像	すべての子どもが笑顔(Well-being)で通う学校 保護者・教職員・地域の方もみんなが笑顔(Well-being)になる学校

重 点 目 標	1 「主体的・対話的で深い学び」のための「デジタル(ICT活用)とリアル(体験)」をバランスよく組み合わせた教育実践 2 誰もが安心して通えるサポート体制の構築 3 地域とともにある学校の具現化 4 農園(学校ファーム)を活用した潤いのある教育環境の整備 5 教職員の Well-being(幸せ)を実現する働きがいのある職場づくり
---------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価			
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 主体的対話的深い学び	【現状】「個別最適な学び」「主体的な学び」の実現は進んでいる。市児童アンケートの結果は以下のとおりである。 ○「…次の学習につなげることができているか」の R6 肯定的回答→高学年 91% ○「…自分から取り組んだか」の R6 肯定的回答→高学年 94.3% 【課題】学びをいっそう深めるための「デジタルとリアル（体験）」をバランスよく組み合わせた系統性のある指導を実践する。	個別最適な学びの創造	○指導形態の工夫（課題別、習熟度別） ○児童が自身で計画・調整（学習目標、学習計画、学習形態等） ○具体物操作や実体験を取り入れた指導計画の工夫 ○学習状況調査結果に基づく指導内容の重点化	○市児童アンケート(3～6 年生)「自分に合った授業」→肯定的回答が 4 学年とも市平均を上回ったか。 ○学習状況調査結果に基づいて計画した「学力向上ポートフォリオ」の実施目標（知識技能・思考判断表現等）がいずれも 8 割以上になったか。				
		協働的な学びの創造	○ペア学習、グループ学習の意図的な設定と適切な「振り返り活動」 ○デジタル教材の効果的な活用（協働編集等）	○市児童アンケート(高学年)「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできたか」→肯定的回答 90%以上になったか。				
2 心のサポート	<現状> ○Sola ルームは活用しているが十分とはいえない。 ○スクールカウンセラーとつながった児童→24 人 スクールソーシャルワーカーと 〃 児童→32 人 さわやか相談員と 〃 児童→51 人 特別支援ネットワーク連携協議会 → 2 回 ○市児童アンケート「学校に行くのは楽しい」に肯定的に回答した児童は 90.3% ○教育相談に関する保護者アンケートの肯定的回答は 91.4% <課題> ▼Sola ルームに関する教職員アンケートの肯定的回答は 44%だった。Sola ルームを人的・物的に充実させたい。	児童一人ひとりの個性に対応するための特別支援教育の充実	○スクールカウンセラー等との連携 ○校内ケース会議の実施 ○個別の指導計画(潤いファイル)の作成 ○Sola ルームの活用 ○交流及び共同学習の実施 ○あおぞら学級の弾力的運用等	○市児童アンケート（全学年）「学校に行くのは楽しい」→肯定的回答 95%以上になったか。 ○Sola ルームに関する教職員アンケートの肯定的回答が 60%以上になったか。（R6:44%）				
		児童のサインの早期把握と即時対応	○スクール・ガッシュ・ボードの活用 ○月 1 回「スマイル相談」の実施 ○「心と生活のアンケート」実施後の速やかな児童面談と管理職への報告 ○全学年で「いのちの安全教育」実施 ○各会議の充実。「いじめ対策委員会」「民生委員等との連絡会」「特別支援ネットワーク連携協議会」等	○教育相談に関する保護者アンケート→肯定的回が 90%以上になったか。				
3 地域とともに	<現状> ○市児童アンケート「地域行事への参加」は 74.2%（R5 より+2pt）で、全学年とも市平均を上回っている。 ○市児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」は 85.7%（R5 より－1Pt） <課題> ・地域でのあいさつが不十分であることを児童も課題に感じている。	児童を主体とした地域への参画	○地域とのつながりをもてるよう、児童会を中心に大原中学校区で連携し、全校で「忘れな草プロジェクト」に取り組む。 ○学校運営協議会へ児童も参画できるようにする。 ○公民館行事や育成会主催事業に児童が参加できるようにする。 ○地域における防災意識の一体化を図るため、近隣の保小中学校と同日に引取り訓練を行う。	○市児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」→肯定的回答が 87%以上になったか。（R6：85.7% R5:86.7%） ○市児童アンケート（3～6 年生）「地域の行事に参加している」→4 学年とも市平均を上回ったか。（R6:2 学年のみ上回った）				
4 教育環境整備	<現状> ○R7 でリフレッシュ工事が終了する。 ▼農園が十分に活用できず、手入れが行き届かない。 <課題> ・校舎内外をきれいに保ちたい。 ・農園の活用及び管理計画が必要である。	農園（学校ファーム）の有効活用	○校内の関係分掌（環境、理科、生活、総合学習）が連携し、7 月までに活用計画を作成する。 ○PTA と連携し、農園アドバイザーや保護者ボランティアの協力を得る。	○本年度、全ての学年児童が農園で活動ができたか。 ○児童アンケート「農園の活動は楽しいか」→肯定的回答が 60%以上になったか。（R6 は未実施）				
		教育環境の整備	○PTA の協力を得て体育館マットの修繕を行う。 ○学級増に伴う教室整備を 1 学期中に終わらせる。（ICT スクリーン、教室更衣用カーテン）	○環境整備が計画どおり進んだか。				
5 教職員キャリア形成	<現状> ○教職員アンケート「学び続ける教師の具現化」に 80%の教員が肯定的に回答した。 ○対象職員 30 名の時間外在校時間（12 月末現在）は、組織平均 32 時間だった。 月 30 時間以下の職員 6 人 月 50 時間以上の 〃 6 人 <課題> 教職員の Well-being（幸せ）を実現する働きがいのある職場づくりが求められている。	「学び続ける教師」の具現化	○研修主任と連携し、キャリアの異なる教員が「協働的な学び」をつくれる研修体制をつくる。 ○教職員一人ひとりが「一人 1 テーマ」を掲げ、学校課題研修に取り組む。	○教職員アンケート「研修」に関する質問→肯定的回答が 90%以上になったか。（R6:80%）				
		I C T の活用と S S S P（働き方改革）の促進	○学校 D x と連携し、校務のデジタル化を進化させる。 ○ワークライフバランスを推進するために、月 2 回のノー残業デーを実施し、時間に対する意識を高める。	○時間外在校時間が一月あたり平均 45 時間以下かつ年間 360 時間以下になったか。				